

令和 6 年度指定管理運営業務評価票

指定管理者：少年自然の家共同事業体		指定期間：平成28年4月1日～令和8年3月31日				所管課：市町村教育室地域教育振興課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準 ごとの評価	評価	
			S～C		S～C	S～C	
Ⅰ 提案の履行状況に関する項目							
(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①社会教育施設としての設置目的及び管理運営方針に則り運営がなされているか	施設の設置目的である、心身ともに健全な青少年の育成を実現するため、利用団体とは事前に丁寧なプログラム内容の相談と打合せを行っています。これにより、教育的な目的や効果を十分に考慮し、青少年にとって意義のある体験活動を提供できるよう全力で取り組んでおります。さらに、この目的を達成するために、既存プログラムの質を常に見直し、充実させる努力を続けております。	A	利用目的や活動内容に応じたプログラムを提供するとともに、適切な指導を行うことで、子どもの多様な体験活動の機会を充実し、心身ともに健全な青少年の育成を図っている。	A（3）	A	
	②法令遵守の取組み状況は適切か	法令遵守については、施設整備に関する各種法定点検を適切に実施し、安全性と法令遵守の徹底に努めています。また、労働基準法を遵守し、職員がオーバーワークとならないよう、適切な労務管理を行っています。さらに、ICTを活用した社内勤怠管理システムを導入し、働きやすい環境の整備と労働時間の適正管理を推進しています。		消防法、浄化槽法など施設関係法令を遵守するとともに、保守点検を計画どおり実施し、適切な施設管理・運営を行っている。 また、ICTによる勤怠管理システムも導入し、適切な労務管理を行っている。	A（3）		
(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	①利用承認、事業の実施等において平等利用が確保できているか	常に公平性を重視し、利用案内、利用承認、事業の実施を行っています。 利用案内 府民に広く平等に情報を提供するため、インターネット配信や地域コミュニティ広報への掲載を依頼しています。また、事業に関しては、チラシを府内図書館や区民センターなどに配布するとともに、広く府民に周知するために、ホームページ、YouTube、Facebook、Instagram、LINE、外部情報サイト「いごよ」を積極的に活用しています。特にLINEやInstagramについては、有料プランの導入や有料広告の利用を行い、さらなる周知拡大に努めています。 利用承認・事業の実施 学校団体に対しては、一定の申込期間を設けた上で、利用希望日程が重複した場合には抽選を実施しています。事業受付については、Googleフォームを活用し、電話申し込みや郵送手続きといった利用者の煩わしさを解消しました。これにより、申込手続きがスムーズになるだけでなく、利用者にとって利便性の高い申込方法を実現しています。また、申込開始日を設定し、申込多数が予想される場合は抽選制を採用しています。施設の利用場所や時間についても、各団体の希望を丁寧に聞き取り、公平性を欠くことのないよう配慮しています。	A	申込及び日程調整の方法を定め、ホームページに掲載したりSNSで周知したりと、幅広く情報提供している。 日程の希望が重複した際は、抽選を行うとともに、体育館等の施設利用の事前打合せを実施することで、平等利用を確保している。	A（3）	A	
	②障がい者、高齢者、外国人等に対する案内等の配慮は適切か	障がい者、高齢者、外国人に対する案内等 障がい者や高齢者に対しては、事前の打合せを十分に行い、個々のニーズに応じた支援体制を整えています。例えば、階段を使用せずに入室可能なフロアの割当や、車いす使用者の所内移動支援を実施しています。また、貸出用車いすや介護用風呂椅子を常備し、障がい者向けの専用浴室も整備することで、利用者のニーズに柔軟に対応しています。さらに、国際的な利用者に対応するため、施設内表示の多言語化を進め、より多様なニーズに応える環境を整備しています。 食事の提供 利用者一人ひとりに対応するため、食物アレルギー調査を徹底し、アレルゲンの除去食や代替食を提供しています。また、糖質や脂質制限が必要な方への情報提供や、嚥下障がいをお持ちの方に配慮した食事も提供しています。加えて、宗教や信仰に基づくハラル食、ベジタリアン、ヴィーガンといった多様な食文化にも対応しており、利用者が安心して食事を楽しめる環境を提供しています。		車いすを利用する方の施設内移動に、専用車を使用している。 食事の取扱いについて、アレルギー調査票に基づき、除去食や代替食を提供している他、嚥下機能に障がいのある場合は、食形態を調整した食事を提供している。また、様々な理由により対応食が必要な場合は、代替食を提供できるよう努めている。 様々な掲示物を多言語化したり、大きな文字やイラスト表記のあるものを用いたりしている。 障がい者用の浴室が積極的に活用されるよう対応している。	A（3）		

(3)利用者の増加・サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①日帰り・宿泊合計の年間利用者数		S			A	
	令和6年度目標 合計 96,951人 宿泊数 52,136人 日帰り数 44,816人	・利用者実績（11月末時点）：77,784人（12～3月の予約人数は8,401人） ・年間利用者見込み（11月末時点）：合計86,185人 内訳 宿泊 47,674人／日帰り 38,511人 ・新型コロナウイルス感染症の影響から脱却しつつ、学校団体利用の多い第一四半期は前年比の115%の利用。第二四半期は夏休みやシルバーウィークでの連泊団体の獲得などが重なり、前年比の102%と微増。第三四半期は昨年度、小中学校団体が29団体から13団体へと減少（バスの高騰化により利用学校行事の見直しや取り消しを行ったケースがあった。）。例年の貸し切りでの施設利用などもあったが、前年度比累計で100%の利用者数となっている。1月以降の予約数を見ると昨年度同数程度の仕上がりになる予想。		実績（11月末時点）： 77,784人 （目標値の80.2%） 内訳 宿泊47,674人/日帰り38,511人	B（2）		
	②施設・設備への投資が適切になされているか	（施設・設備への投資） これまで利用受け入れが難しかったファミリー層、小グループなどの一般利用を増やすことを目的に「バーベキューガーデン奥貝塚」を平成30年3月16日に設置。建築費用は9,760,000円（72回リース・平成30年3月より開始）。 （利用状況及び利用促進） 「バーベキューガーデン奥貝塚」には11月末までに180件2,492人の利用があった。昨年11月末時点の2,173人に比べ、319人の利用数増となった。。うち、一般利用は160件1,792人で、利用促進として「ホテルのタベ」、「ツリーイング体験」、「えほんでいただきます」などの事業活用分が20件700人だった。昨年度、周辺に増設した家族・小グループ向けのテントサイトの炊事場としても利用がある。ただし年間目標5,800人の達成は難しい。		バーベキューガーデンを活用した事業を積極的に行うことで、昨年度より少しバーベキューガーデンの利用者数は増えたが、指定管理者応募時の提案書数値と比較すると4割程しか達しておらず、利用促進については課題が多い。	C（1）		バーベキューガーデンについて、繁忙期のみではなく、季節に合わせたイベントの開催・企画等をおこなうことにより、利用者数増が期待できないか。
	③主催事業が適切に実施できているか						
	・事業数 令和6年度目標 5事業	令和6年度実績（11月末時点）： 3事業 4回 令和6年度予定： 5事業 6回		実績（予定含む）： 5事業 6回 【達成率】 100%	A（3）		
	・参加者人数 令和6年度目標 291人	令和6年度実績（11月末時点）： 138人 令和6年度見込： 318人		実績（見込含む）： 318人 【達成率】 109.3%	A（3）		
	・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	家族を対象とした募集事業や、回数を増やして参加者を分散するなどの工夫をしながら実施し、目標達成の見込である。 例年好評の読書推進事業「えほんでいただきます」は、150冊の絵本を自然の中で読むことができ、親子で絵本に登場する野外料理をつくるなど、「絵本×自然」という図書館ではできない体験を楽しめて好評だった。 同じく「絵本のひろば」を2月に「その他自主事業」の「オープンデー」と併催で予定している。ホールで寝ころびながら自由に読めるなど、施設ならではの読書体験を提供する。 いずれも貝塚市立図書館にご協力いただいている。 「中高生チャレンジキャンプ」「子どもワイルドキャンプ」は、それぞれ3泊と4泊で実施。川遊び、秘密基地づくり、流しそうめんなど、仲間と相談・協力する力、想像力、創造力を育む効果がある。繰り返し参加する子どもがいることから、事業の魅力の高さが感じられる。 3月に防災関連事業「サバイバルマスター」を予定している。防災意識が高まっており、多数の参加が見込まれる。		参加者のニーズを分析し、実施内容の見直しを行うとともに、開催方法も工夫して実施するなど、1つ1つの事業について、向上心を持って取り組んでいる。さらに時代のニーズに合わせた事業や内容を検討し、教育効果をより高めるための工夫を行ったことが、結果として参加者人数の目標達成につながっている。	A（3）		
	④広報・情報発信の取組みが適切になされているか	大阪府と連携して各種広報活動を展開している。 （広報物の工夫）事業チラシは年間行事の案内をはじめ、各事業ごとにラクスルを採用し、しっかりした印刷物として配布している。またオンラインデザインツールCANVAの有料プランに加入し、効率的に興味を引くようなデザインを心がけている。 SDGsマッピングを行い、対象の事業にはアイコンを入れることで、持続可能な環境への取り組みをアピールしている。 図書館、公民館、コミュニティセンターへの送便便を利用して主催、自主事業などのチラシを配架している。 過去の事業参加者にはダイレクトメールを送付している。（12月末までに6回、2カ月に1度のペース。登録数700件） 貝塚市の広報誌へ毎月、事業案内の掲載を依頼している。 情報は随時ホームページやSNSに掲載し、民間のweb媒体（いごよ・イベントバンクなど）を利用し、情報を提供している。 （その他取材記事の例）読売新聞（SNSフォロー数） 受付窓口にて、フォローへの特典サービスを用意し、フォローの増を図っている。 Instagramフォロワー 1 3 6 4 人→1 7 7 5 人、Facebookフォロワー 8 2 7 人→8 6 1 人、LINE 1 0 5 1 人→1 2 1 4 人 （有料WEB広告の活用） LINEアカウントは引き続き有料プランを使用し、定期的な情報発信ツールとして利用している。 instagramの有料広告を予定し 焚火やオープンデイの広報手段の一つとして利用する。		地元の広報誌や新聞、インターネット等の様々な媒体を利用し、幅広く広報を行っている。 SDGsマッピングを行い、対象の事業にはアイコンを入れ、持続可能な環境への取り組みをアピールを行うことで、自然の家のイメージの向上や信頼性が高まっている。 また過去の事業参加者に事業参加を呼びかけるダイレクトメールを送るなど、幅広く利用者を獲得しようとしている。さらに、Instagram、facebook、LINEのフォローも増加しており、SNSを有効に活用している点が評価できる。	S（4）		
	⑤利用者サービス向上の取組みが適切になされており、効果をあげているか	過去5年間の団体代表者に対して、一年前の予約開始時期を知らせるFAXやハガキを毎月発送しており、予約忘れの防止に役立つと好評である。 団体の打合せの利便性を向上させるため、直接来所その他、電話やメール、Zoomなど多様なコミュニケーション手段を用意している。 施設の様子が映像で確認できるように、YouTubeチャンネルに施設紹介動画をアップロードし、利用団体に案内している。現在までに40,000回以上閲覧されている。 ICT導入を進め、事業受付の簡略化を図るため、各事業ごとにQRコードを用いてGoogleフォームから申し込みができるようにし、チラシなどで利用者に周知している。 申込プラットフォームをGoogleフォームに統一し、24時間いつでも利用者が申し込み可能な体制を整えた。 「お泊りバック」などの事業受付時の案内を、タブレット端末を活用した動画説明に変更したところ、利用者から「わかりやすい」と好評を得ている。		団体の打合せや下見について、さまざまな方法を選択できるようにすることで、来所しなくても実施できるよう工夫しており、施設案内用のyoutube動画も数万回の閲覧があり、利用者のニーズに対応することができている。 予約を24時間申し込み可能なGoogleフォームを活用する等、利用者サービス向上のみならず、職員の負担軽減につながる取組も実施している。	A（3）		

(4)施設の維持管理の内容、的確性及び実現の程度	①維持管理の内容は効果的で適切か	大阪府との年間業務委託・保守点検計画に基づき日常点検とメンテナンスを実施。適用する関係法令を遵守するとともに、専門的な知識、技能を有する業務は専門業者により実施している。 (点検及びメンテナンス業務) <table><tr><td>消防用設備点検</td><td>LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検</td><td>ガス温水器排ガス測定</td></tr><tr><td>電気工作物保安管理</td><td>警備保安管理</td><td>ボイラーの運転</td></tr><tr><td>温水ヒーター（ボイラー）点検</td><td>浄化槽検査</td><td>水道施設維持管理及び水質調査</td></tr><tr><td>受水槽・高架水槽清掃</td><td>灯油地下タンク点検</td><td>汚水処理施設維持管理及び汚泥搬出</td></tr><tr><td>建築基準法に基づく定期点検</td><td>敷地内除草</td><td>防火対象物点検</td></tr><tr><td>特別清掃</td><td>空気環境測定</td><td>害虫防除</td></tr><tr><td>公用車点検整備</td><td>ごみ回収</td><td></td></tr></table> 各種点検等で指摘事項があれば、修繕等、迅速に対応している。 また、点検結果については、所轄官庁へ提出するとともに、大阪府と連携し、日常の安全管理に努めている。 当年度は貝塚消防署より不定期の立入検査があり、発電機室の消火設備増設、地下灯油タンクの老朽化対応など指摘を受け、大阪府と調整中である。	消防用設備点検	LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検	ガス温水器排ガス測定	電気工作物保安管理	警備保安管理	ボイラーの運転	温水ヒーター（ボイラー）点検	浄化槽検査	水道施設維持管理及び水質調査	受水槽・高架水槽清掃	灯油地下タンク点検	汚水処理施設維持管理及び汚泥搬出	建築基準法に基づく定期点検	敷地内除草	防火対象物点検	特別清掃	空気環境測定	害虫防除	公用車点検整備	ごみ回収		A	法令を遵守した法定点検等を実施し、利用者が安全・快適に使用できるよう適切に維持管理を実施している。消防署の立ち入り検査で指摘を受けた部分も、当課に相談してともに解決できるよう調整を行っている。	A（３）	A	
	消防用設備点検	LPガス強制気化装置（ペーパライザー）保守点検	ガス温水器排ガス測定																									
	電気工作物保安管理	警備保安管理	ボイラーの運転																									
温水ヒーター（ボイラー）点検	浄化槽検査	水道施設維持管理及び水質調査																										
受水槽・高架水槽清掃	灯油地下タンク点検	汚水処理施設維持管理及び汚泥搬出																										
建築基準法に基づく定期点検	敷地内除草	防火対象物点検																										
特別清掃	空気環境測定	害虫防除																										
公用車点検整備	ごみ回収																											
②施設管理に関する経費の執行状況は適切か （正当な理由なく、修繕費の実績（具体的な予定額を含む）が計画の90%を下回る場合は、「C」評価とする。）	緊急性が高いものは即時対応し、通常の修繕は優先順位をつけて実施した。今年度は7月に食堂GHPが故障し、軽減措置として厨房側のPACエアコンの増設工事（1,815,000円）を行ったため、11月末までの修繕費の予算1,760,000円に対して3,866,402円と予定を超過し（220%）執行をしている。GHP本体の交換工事も大阪府と協議を進める予定。 【主な修繕】 オリエンテーションホール音響機器更新、厨房PACエアコン増設、ボイラー室A棟暖房用温水循環ポンプ更新、宿泊棟各階入口のスマートロック設置 宿泊室C棟非常口ガラス修繕、玄関天井ボード剥離修繕、1号道路陥没アスファルト補修、登山道整備など		施設内において利用者が安全で快適に過ごせるように、リスク分担表にもとづいて速やかに対応している。12月末現在で修繕費の実績が計画数値を大幅に達成しており、経費の執行状況は適切である。	S（４）																								
③施設の規模・機能にみあった管理体制・危機管理体制が確保されているか	(管理体制・危機管理体制の確保) 技師の増員による管理体制の強化 (その他) ・食堂の食物アレルギー対応強化（アレルギーマニュアルの遵守） ・緊急時の備蓄品確保 ・火災避難訓練の実施（年2回） ・危機管理マニュアルの更新		今年度、台風での休所が何度あったが、台風や地震による被害は発生していない。食物アレルギー事案が起こったが、マニュアルや食堂の対応を見直し、対応強化に努めている。またすべての職員が定期的に「危機管理マニュアル」を確認し、危機事象発生時には、迅速適切に対応ができるよう努めている。	B（２）																								

(5)府施策との整合	①府・公益事業協力等の実施状況は適切か	○「おおさか元氣広場出前講座」の実施 ・大阪府が実施する教育コミュニティづくり推進事業「おおさか元氣広場出前講座」を通して、府内の小学校の放課後子ども教室に赴き、スプーンづくり等、体験活動を実施。2024年12月末現在、実施6件124名。さらに年度末までに5件161名を予定。 ○公民館事業への協力 ・毎年、河南町教育委員会の要請により、テント設営、たき火などの体験活動を提供している。 当年度は新たに、堺市「泉ヶ丘ライプタウン会議」の要請により、地域活性イベントでのスラックライン体験を2回提供した。 ・貝塚市自然遊学館の学術調査研究に駐車場を提供、貝塚市主催イベント「ゆったりワーク」の通過ポイントに協力した。 ○「山岳救助訓練」場所の提供 大阪市消防局、貝塚・岸和田消防本部、関西空港海上保安庁などの要請で、山岳救助訓練の場所を提供している。 ○その他 ・「なにわなんでも大阪チャレンジ」参加者への特典進呈、「まいど子でもカード」への協力を実施している。 ・各官庁からポスターの掲示等の様々な啓発に協力している。	A	「おおさか元氣広場出前講座」や「山岳救助訓練」の場所提供など、府や市町村の事業に協力している。また、貝塚市自然遊学館の学術調査研究に駐車場を提供したり、貝塚市主催イベント「ゆったりワーク」の通過ポイントに協力したりするなど、自治体との連携について積極的である。	A（３）	A	
	②行政の福祉化の実施状況は適切か	・知的障がい者1名を清掃業務担当として継続雇用している。 ・大阪府商工労働部と連携し、高齢者就労自立支援事業の就労場所として施設を提供している。		知的障がい者を継続雇用しているほか、高齢者就労自立支援事業に協力し、高齢者の就労場所を提供している。	A（３）		
	③環境問題への取り組みの実施状況は適切か	・SDGsマッピングを行い、チラシに表示を行うとともに事業内に取り組むことで環境問題の啓発を行った。 ・節電キャンペーンのポスター掲示、節電巡回の実施、デマンド監視装置設置などで電力需要とCO2排出の抑制に努めた。 ・利用者に持込ゴミの持ち帰り又は有料引き取りを実施することによりゴミの減少に努めている。また、夏期の客室エアコン利用時間については入所の時間に合わせた。夜間のフリースペースとしての食堂のエアコン利用時間を23時までと案内している。 ・貝塚市の一般廃棄物処理基本計画に基づき、ゴミ減量政策に協力し、資源ごみは業者に処分を依頼している。 ・小規模団体受入時の食堂食の提供する際、適切な量の炊飯が行えるよう、小型炊飯器を導入し、フードロス軽減に努めている。 ・利用者に呼びかけ、節電・節水に努めた。 ・館内照明の90%がLED照明へ置換され、省電力化された。		世界的な目標であるSDGsに関連する取組を積極的に進めていることが評価できる。また、さまざまなエコ活動の取組を実施し、館内照明のLEDも9割に達し、環境問題への取り組みを適切に実施している。	A（３）		
	④府民、NPOとの協働の実施状況は適切か	(府民との協働) 大学生、社会人を主体とした専属リーダー「そぶりだ」を継続的に募集し、主に事業のサポートリーダーとして活躍している。 令和5年登録人数36人 → 令和6年 46名 ※学生卒業及び継続意思確認の為、人数整理を行った ・リーダー研修の実施回数と内容 2024年5月15日 説明会のみ オンライン(ZOOM) 2024年5月19日 説明会と体験会 日帰り 2024年5月25日 説明会のみ オンライン(ZOOM) 2024年6月29日～30日 2024年9月28日～29日 2025年2月22日～23日 火おこしやテント設営、野外炊飯などのアウトドアスキル研修、キャンプファイヤーなどのレクリエーション研修、グループ運営や保護者へのフィードバックなどのコミュニケーション・ファシリテーション研修を行った。 (インターンシップの受け入れ) 大阪教育大学 15名 、 大阪体育大学 3名 、 各種イベントのサポート、施設管理サポートなど、幅広く実習の機会を提供した。 (ボランティア団体との協働) シニア中心の「和泉葛城ネイチャー」「レクリエーションプログラム協力者連絡会」に施設内の環境保全、自然工作や観察などの指導、炊飯やレクリエーション、キャンプファイヤーの指導などを依頼している。 今年度2月に行う、「自然の家オープンデー」では、大阪府立弥生文化博物館、貝塚市消防本部、貝塚市警察署、貝塚市民図書館、貝塚市観光協会、岸和田自然資料館、日本モルック協会など協力を依頼した。また、他に水間鉄道株式会社、近畿中央ヤクルト販売株式会社、大阪いずみ市民生活協同組合(COOP)、「走り方教室」のスポーツ指導員など、数多くの民間団体から協力を予定している。 (NPO法人との協働) 自主事業「乗馬体験と臨床動作法」の開催に際しNPO団体から協力をいただいたり、出前講座などでNPO団体から指導依頼があった場合は協力をしている。 (その他) 3月に貝塚市、周辺施設との協働で実施するウォーキングイベントに参画を予定している。		大学生や社会人のボランティアリーダーを継続的に活用している。	A（３）		

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言	
		評価内容	評価	評価内容	評価基準 ごとの評価	評価		
			S～C		S～C	S～C		
Ⅱ　さらなるサービスの向上に関する事項								
(1)利用者満足度調査等	・利用者満足度調査を実施し、分析結果をフィードバックしているか	(アンケート調査の実施) 利用団体には「施設利用」「活動プログラム」「バーベキューガーデン奥貝塚」についてアンケート調査を実施している。 (アンケート調査の回収率および調査結果の反映) 「施設利用」のアンケートの回収率は1 1 月末時点で94%。アンケート結果は全体会議にて職員で共有し、優先度に応じて対応、改善を行っている。食事や職員の対応などは引き続きご好評を頂いている。各事業も実施後にアンケートを行い、頂いたニーズやアイデアを以降の事業の改善に活用している。		S	利用者満足度調査を実施し、回収率は9割以上ある。個別の事業に対するアンケートも実施することで、細やかな分析をすることができおり、分析結果については、組織として検討、対応するなどのフィードバックがきている。	A（3）	A	
(2)自主事業	①施設の設置目的に応じた事業が適切に実施されているか			S			S	
	・事業数 令和6年度目標　11事業	令和6年度実績（11月末時点）　：　7事業23回（荒天中止除く。「おおさか元気広場（出前講座）」等を含む） 令和6年度予定　　　　　　　　　：　11事業35回			実績（予定含む）：　11事業35回 【達成率】　100%	A（3）		
	・参加者人数 令和6年度目標　675人	令和6年度実績（11月末時点）　：　734人 令和6年度見込　　　　　　　　　：　1,079人			実績（見込含む）：　1079人 【達成率】　159.8%	S（4）		
	・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	「自主事業」は11月末時点で年度目標人数を達成している。　広報はホームページ・SNSを中心に認知され、応募開始から満員になるまでの期間が短くなってきている。 「ホテルのタベ」は人気が高く、宿泊も加え延べ6回設定（うち1回は雨天中止）。今年もホテルが観戦でき、里山との共生についても学んでいた。 「フォレストジュニアクラブ」は小学生高学年を対象に、四季に合わせ全4回設定。春はゲームで獲得した食材からメニューを創作するフードハンティング、夏はテント泊で流しぞうめん、竹ランタン製作、秋はクリスマスリース作りを行った。いずれも子どもたちの創造力、協調性を育くむプログラムが実施出来た。 「子どもシャワークライミング」は人気が高く、午前と午後で2日、計4グループで開催し定員増加に応えた。擦り染めかパンづくりも加え自然と親しむ夏休みとなった。 「ファミリーキャンプ」は家族で手軽にキャンプ体験ができる事業で、リーダーのサポートが手厚く、初心者のみならず、低年齢・小人数のご家族への対応も好評だった。 知的障がい児童を対象とした「乗馬体験と臨床動作法」は府内の支援学校に募集。毎回、ご家族から貴重な体験、子どもの表情の変化に感謝いただいている。 清水建設と大阪府泉州農と緑の総合事務所との三者共同事業「アドプトフォレスト」は、クラフトやツリーイング体験を交えながら、「森の大切さ」を学ぶ目的が達成できた 食育をテーマにした「自然をまるかじり」は家族でタッチオープンで鶏の丸焼きつくった。普段は部位でしか目にしない食材を丸ごと使う体験に親子ともに感心を寄せられた。 不定期開催の出張型事業「おおさか元気広場出前講座」は小学校の放課後子ども教室向けの体験事業（本年度見込11件）。スプーン作りなどのクラフト系の他、ロープ遊び、テント設営、スラックライン体験等も増えてきている。外部講師から指導される機会は児童も教員にとっても新鮮で歓迎されている。 指導者養成事業として、「ツリーインググライマー養成講座」、施設ボランティアの「そぶらリーダー研修」(年3回)のほか、大学生の「インターン就労体験」の受入を行った。			いずれの事業においても、青少年をはじめ多様な層を対象とした、自然の家の強みを活かした多種多様な魅力的な内容に取り組んでおり、利用者の学びも深いものとなっている。特に人気の高いプログラムの「ホテルのタベ」と「子どもシャワークライミング」については開催回数を多くするなどの工夫も行っており、利用者の満足度も高い結果となっている。	S（4）		
	②その他の自主事業が提案のとおり実施されているか							
	・事業数 令和6年度目標　12事業	令和6年度実績（11月末時点）　：　8事業23回（中止除く） 令和6年度見込　　　　　　　　　：　12事業38回			実績（見込含む）：　12事業38回 【達成率】　100%	A（3）		
	・参加者人数 令和6年度目標　1,241人	令和6年度実績（11月末時点）　：　712人 令和6年度見込　　　　　　　　　：　1,677人			実績（見込含む）：　1,677人 【達成率】　135.1%	S（4）		
	・内容（利用促進につながっているか、利用者満足度等）	「その他自主事業」は、利用者のニーズに応じて新たな試みを織り交ぜながら企画し、利用者の促進を図っている。 11月末時点での人数は少ないが、昨年まで秋に開催していた感謝イベント「オープンデー」を2月に予定しているほか、1月、2月には人気の高い「たき火を楽しもう」を予定しており、閑散期の利用促進にも寄与しつつ、目標を達成する見込である。「オープンデー」は夜にキャンプファイヤー体験を追加し、利用者の増加を図る。 家族対象事業は、「お泊りバック」(春・秋の連休と冬。計8回)、「流しそうめん体験」(8回)、「家族でツリーイング体験」(2回)を実施。いずれも家族の絆を深める体験、思い出づくりができて好評だった。「お泊りバック」は季節に応じてプログラムや野外料理の内容を変えており、リピート参加者の満足度を維持する工夫を行っている。 未就学児対象の「もりのようちえん」は年4回、季節に応じた野外遊びを実施。親子で自然との触れ合い方を学び、原体験を育む、根本的な野外活動を継続している。 「もりのようちえん」と「フォレストジュニアクラブ」の間を取り持つ小学校低学年向けの年間事業「もりのくらぶ」は季節に応じて年4回設定。春は田んぼの生物観察（夏は荒天で中止）、秋はいも掘り・焼いもを実施。「触れる」「見る」「味わう」など「五感で感じる」ことに着目した。親と離れて活動し、冬は「はじめてのお泊り」で自立を促す。 「おとなのえんそく」はシャワークライミングとツリーイングを実施。燗製づくりやハンモックで樹上でティータイムなど、大人ならではの遊びの工夫を取り入れている。 成人女性限定の「女性のためのキャンプ体験会」は、開始当初のテーマ「初めてのソロキャンプ」から回を重ねて再参加者が増えてきており、テーマを見直す時期となった。 冬期の利用促進として行ってきた小学生高学年向け「プログラミングキャンプ」は流行を鑑み、Vチューバー体験が出来る「クリエイターキャンプ」として内容を見直した。グループで自然の家を紹介する動画を企画・撮影・編集するもので非常に人気が高く、2月に追加開催する。			事業の参加状況や、利用者の反応を、事業の内容や回数に反映しており、利用の促進を図っている。また、新規利用者や大人の獲得をねらいとする事業にも精力的に取り組んだり、リピーターの満足度を維持するための工夫をおこなったりと、事業の向上のために努力を続けている。 「オープンデー」の開催を2月に変更し、人気の高いプログラムを取り入れたり、夜の部を開催したりと、参加者数増加に力を入れて準備している。(2/11開催予定)	S（4）		
(3)その他創意工夫	・その他のサービス向上につながる取組み、創意工夫がされているか（危機管理を含む）	・ICT環境を整え、打合せに向くことが難しい団体には、昨年度に引き続き電話（格安SIMを利用）やZoomを利用してのリモート形式で打合せを行った。また、事業の受付時の説明は一部タブレットや自然の家Youtubeチャンネルでの動画を活用した。 ・各宿泊棟のフロア入り口にスマートロック（電子錠）を取り付け、セキュリティの向上を図った。 ・8月に食堂GHPが故障したため、臨時としてスポットクーラーのレンタルや、厨房内にパッケージエアコンの取り付けを行い、暑さの緩和に努めた。 ・4月に学校団体を対象とした「下見ツアー」を実施。特に新学年の担任教員は利用時のイメージを事前に持つことができ、好評であった。 ・昨年に引き続き、野外炊飯の個食メニューを提案したり、炊飯や集団での食事を避けたい団体には手作り弁当の提供を行った。 ・急な災害に備えて、備蓄品として飲料水や防災食、防災グッズなどを揃えている。 ・指導者不足により、キャンプファイヤーやクラフト、炊飯指導などの活動が困難なグループのニーズに応える為、有料にてプログラムのサポートを提案し大変好評であった。		A	電話やリモート会議での打合せの実施や、タブレットや動画での説明等、ICT機器の活用は、利用者の利便性の向上につながった。他にも、下見ツアーの実施や、プログラムのサポート等、利便性の向上や利用者ニーズへの対応に努めている。	A（3）	A	できるだけ自然体験という施設の利用目的を外さずに、多様な利用の仕方を受け入れていってほしい。

Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目							
(1)収支計画の内容、的確性及び実現の程度	①収支計画の妥当性及び事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか	（収支計画の妥当性） 令和6年度の収支計画は、新型コロナウイルス感染症の影響前の平成30年度と令和5年度の収支計画を基に作成した。 （事業計画） 令和6年度の収支計画と整合するように作成した。 （管理体制計画） 令和6年度の収支計画と整合するように作成した。	A	提案時の収支計画を見直し、新型コロナウイルス感染症の影響前後を比較し検討した収支計画としたことは妥当である。 また、変更した収支計画と事業計画・管理体制計画との整合性が図られている。	A（3）	A	
	②収支は計画どおり行われているか	年度予算に対し、計画していた4月～11月までの収支は、収入は宿泊部門が100%、食堂部門が90%。支出は施設部門が110%、食堂部門が88%となっている。		収入の計画比が支出の計画比より下まわっているが、必要な設備投資のためとなっている。	A（3）		
	③収入確保や管理コスト削減の取組みは実施されているか	（収入確保の取組） 原材料高騰を受け、事業参加費を見直し、収入の安定化を図った。さらに、日帰り事業参加後に宿泊利用ができるプランの追加や、「お泊りバック」の積極的開催、利用団体のニーズに応じたプログラム指導を提案を実施するなど、収入増加と顧客満足度の向上を目指した。また、抽選にもれた利用団体に対して時期変更を提案し、利用の継続を促すことで団体数の確保と収入増加に努めた。 （管理コスト削減の取組） 光熱水費については、施設照明の90%をLEDに置き換えることで節電を図った。また、電気需要の繁忙期である夏期は利用者へ節電を呼び掛けることで使用量を抑制。結果として、11月末時点で支出を予算比64%に抑えることができた。また、宿直業務や除草作業など、一部の外部委託業務を自主対応とし、費用削減を図った。		利用団体のニーズに応じたプログラム指導を提案を実施するなど、収入増加と顧客満足度の向上を目指した。また抽選にもれた利用団体には、別案を提案するなど積極的に利用の継続を促し、団体数の確保と収入増加に努めた。 光熱費については、LED化や節電の徹底等により、管理コストの削減に努めた。	A（3）		
(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①管理運営業務全体として職員体制は適切か	・共同事業体2団体により適切な職員配置を行っており、職員は総括2名、施設管理部門22名（うちパートアルバイト12名含む）に加え、7月から12月までの1名を期間限定で増員し繁忙期に合わせて柔軟な人員配置を行った。食堂部門は16名（うちパートアルバイト11名含む）を配置した。	A	繁忙期に合わせて柔軟に期間限定での職員増員を行い、適切な職員体制の整備に努めた。	A（3）	A	
	②事業実施に必要な人員数の確保・配置従事者への管理監督体制・責任体制は適切か	・団体の利用受入れについては、体験活動に精通した社会教育士が助言を行い、学校等の自然体験活動を支援している。 ・事業実施の際には職員を主・副担当として配置し、管理監督の下、参加者の安全、生活面での指導に当たっている。またボランティアリーダーを育成するため、年間を通じて研修を行い、指導面や安全面のスキルアップに取り組んでおり、研修を受けたボランティアリーダーを各事業に配置している。		社会教育士による助言や、事業における主担当・副担当の配置等により、適切な管理監督体制・責任体制を整えている。	A（3）		
	③年間研修計画を策定し、適切な研修体制の整備、職員の指導育成を行っているか	・各構成団体が実施する人権研修は職員全員が受講予定である。教育施設関係の会議・研修は、4月の「近畿地区青少年教育施設協議会 所長研修会・基本研修会・専門研修会」に計3名が参加。12月にも「近畿地区青少年教育施設協議会ユースプロジェクト」に1名の参加を予定している。 専任研修としては6月に72時間サバイバルコーチ養成講座を2名受講。7月にシャワークライミングの職員研修6名。ツリーング研修受講1名。10月「大阪府・関西万博に向けた宿泊施設衛生管理等講習会」受講2名。11月にも同研修1名。今後は12月に「チェーンソーによる伐木等の業務に係る特別教育」に1名。「小型車両系建設機械の運転の業務に係る特別教育」に1名。ユースワーカー養成講座受講2名、WMA 救急研修3名。1月にツリーイング研修受講1名。 2月に社会教育士の受講を予定している。（現在、有資格者3名）		職員全員が人権研修を受講することし、利用者に対して適切な対応ができるようにしている。また、さまざまな研修や講座等を積極的に受講することで、職員の指導育成を行っている。	A（3）		
(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	①運営基盤として、事業者の経営状況は健全か	利用者の利用状況は昨年度と同等程度の利用状況であるが、貸切バス費用の高騰化や大阪万博でのバス需要の高まりにより、次年度事業を見送る学校団体が多数あり、現時点で次年度の予約状況が5,000人程度数の落ち込みが見られる。事業者として、適正な施設の管理運営・雇用維持・手元資金の確保等のために様々な手段を講じているが、経理状況は予算を許さない状況が続いている。	B	来年度は万博の影響によるバス問題で、事業を見送る学校団体が多数あり、利用者の落ち込みが見られることは必至。事業者として、適正な施設の管理運営・雇用維持・手元資金の確保等のために様々な手段を講じてくれているが、厳しい状況が続いている。	B（2）	B	
	②運営状況として、事業者の財務状況は妥当か	令和6年度の収益状況は両団体ともに予算を許さない状況が続いており、上記のように努力している。		共同事業体を構成する2団体の令和5年度決算報告によると、財務状況の厳しさがなお継続している。	B（2）		

○ 各評価項目について、S（優良）、A（良好）、B（ほぼ良好）、C（要改善）の4段階で評価をする。

○ 評価項目に複数の評価基準があるものは、各評価基準ごとに、S A B Cの4段階で評価したうえで、S（4点）、A（3点）、B（2点）、C（1点）とし、評価基準の平均値が【3.5以上 … S ／ 2.5以上3.5未満 … A ／ 1.5以上2.5未満 … B ／ 1以上1.5未満 … C】で評価をする。

○ 網掛けの項目は、下記の方法により定量評価を行う。

I（3）①年間利用者数 …… 目標利用者数の【100%以上…S ／ 目標値の85%以上100%未満 …A ／ 70%以上85%未満 …B ／ 70%未満 …C】

※ 少年自然の家では、夏場繁忙期・冬場閑散期という特徴があり、第2期（平成23から27年度）11月末時点の利用者数実績が目標値の約85%であったことから、目標値の85%以上をAと設定する。なお、評価は11月末時点の数値で行う。

その他の項目 …… 目標値の達成度が【 120%以上 …S ／ 目標値の100%以上120%未満 …A ／ 80%以上100%未満 …B ／ 80%未満 …C】として評価を決定する。（ただし、年度末までの予定数も含む）